

総合・国際	香港警察 大学に突入	4面
経済	日産 ゴーン被告逮捕から1年	7面
スポーツ	ラグビー ジョセフHC続投	18面
社会	新潟女性刺殺 容疑の男逮捕	31面
社説	日韓の対抗措置／離婚後の養育費	5面

東信	別所線の通勤客「便利」
北信	保護者同士で助け合い
中信	ノーマイカーデー開始
諏訪	自動車ラリー総合優勝
飯田伊那	人形劇の熱気をつなく
	地域ニュース22-25面

2019年(令和元年)

11月19日

火曜日

権兵衛トンネル仮橋検討 国交省 国道崩落箇所

上伊那郡南箕輪村の国道361号権兵衛トンネル出入り口付近で10月に発生した道路崩落によって同トンネルが通行止めになっている問題で、国土交通省が崩落箇所仮橋の設置を検討していることが18日、分かった。伊那谷と木曾谷をつなぐ主要幹線の通行止め長期化は地元で大きな影響を与えており、同省は復旧の最速手段として実現可能かどうか検討に着手した。

【関連記事2面に】

崩落したのは、権兵衛トンネルの出入り口の「権兵衛2号橋」と接続する道路。県は10月20日、トンネル出入り口の約20メートルで橋台付近の斜面が大きくえぐられているの



を確認。同日から通行止めにした。同22日に橋に接続するトンネル側で長さ6メートルにわたる道路の崩落も確認した。

政府は今回の道路崩落を台風19号の影響による災害とみて、大規模災害復興法に基づき「非常災害」に指定。県管理道路だが、国が代行して復旧に当たる。

同省中部地方整備局は、有識者らによる災害復旧技術検討委員会を発足させ、11月2

日に伊那市内で初会合を開催。事務局の飯田国道事務所などによると、委員会で仮橋の設置を検討する案が出た。安全性を十分確認した上で、仮橋をどのように架けるか検討する。仮橋で1車線を確保した上での片側交互通行を選択肢の一つとしている。

崩落の詳しい原因は分かっておらず、現場では地質調査が継続中。同事務所は、調査結果によって仮橋の可否や、工法が決まってくるとした。

白鳥孝伊那市長は18日の定例記者会見で「仮橋が架けられれば(片側)交互通行が可能と聞いている。仮橋が可能かどうかという結論が出ることを願っている」と述べた。

台風19号関連

7県から職員派遣
文化財被害まとめ
「農ボラ」本格始動
あの時そして今

31 30 29 3

長野市被災家屋3862戸に

13日時点 半壊や一部損壊増加

長野市災害対策本部は18日、台風19号に伴う千曲川の氾濫から1カ月の13日時点の被災家屋調査結果をまとめ、市内計3862戸が浸水被害を受けたと明らかにした。木造やプレハブ住宅が対

象で6日公表の1次調査から242戸増えた。流失や床上1・8メートル以上の浸水の「全壊」は824戸で変わらないが、「大規模半壊」「半壊」「一部損壊」がそれぞれ増えた。市資産税課によると、これまでの調査対象は5393戸に上った。集合住宅などはまとめて1戸と数えている。

浸水が床上1メートル以上1・8メートル未満の大規模半壊は1次調査後11戸増の275戸で、千曲川の堤防決壊現場に近い長沼、豊野地区など市東北部で多い。床上1メートル未満の半壊は94戸増の1190戸で、篠ノ井、松代町など市南部が900戸を占める。床下浸水など一部損壊も市南部中心に137戸増の1573戸だった。全壊の824戸はいずれも市東北部。

市災対本部では、調査済み家屋に対する被災証明書の交付件数が15日現在で3361件に達したことも報告。市は当初の推定で、市内全体の被害家屋を計5086世帯としていた。

権兵衛トンネル通行止め1カ月

観光・医療影響各方面に

上伊那郡南箕輪村の国道361号権兵衛トンネルが通行止めになって20日で1カ月。影響は観光や運送など各方面に及び、医療現場にも不安がある。復旧を願う声は切実だ。



権兵衛トンネル(右)の出入り口付近で行われた崩落箇所の撤去作業=14日、飯田国道事務所提供

【1面参照】

木曾郡木曾町福島の旅館「木曾路の宿いぢや」は例年、農閑期となる10月下旬以降、上伊那地方から農家らの団体の宴会を受け入れており、国道361号を通過してマイクローバスで送迎する。だが今年はその忘年会や新年会の予約もなく、専務の児野政明さん(52)は「トンネルが使えない不便をしみじみと感じる」と話す。木曾町福島の旅館「街道浪漫おん宿蔦屋」は伊那方面から30人の団体客のキャン



県内

セルがあった。国道361号沿いにある伊那市西箕輪のそば店「そば処こやぶ竹馨庵」は、来店客が平日は半減、土、日曜日は3割減に。店主の伊藤祐一さん(75)は「12月は元々客が減る。仮橋でいいので、早く対応してほしい」。

た。現在は高速道を塩尻インター(IC)まで利用し、木曾に入っており「時間とコストの負担が大きい」。2、3時間ほど早めに営業所を出なくてはならず、「運転する従業員の疲労も始めている」とこぼす。

木曾郡内唯一の病院である県立木曾病院(木曾町)は、循環器内科と脳神経外科に常勤医がいらない。脳出血と心筋梗塞の患者は一刻を争うだけに、国道361号経由で、35分40分で到着できる伊那中央病院(伊那市)に搬送していたが、今は松本市の病院に行き先を変更。数人ずつを送った。搬送に1時間20分、1時間半はかかる。飯島章博副院長(53)は「幸い手遅れになる例はまだない」としつつ、権兵衛トンネル不通の影響を懸念している。

木曾郡木曾町福島の旅館「木曾路の宿いぢや」は例年、農閑期となる10月下旬以降、上伊那地方から農家らの団体の宴会を受け入れており、国道361号を通過してマイクローバスで送迎する。だが今年はその忘年会や新年会の予約もなく、専務の児野政明さん(52)は「トンネルが使えない不便をしみじみと感じる」と話す。木曾町福島の旅館「街道浪漫おん宿蔦屋」は伊那方面から30人の団体客のキャン

木曾郡内唯一の病院である県立木曾病院(木曾町)は、循環器内科と脳神経外科に常勤医がいらない。脳出血と心筋梗塞の患者は一刻を争うだけに、国道361号経由で、35分40分で到着できる伊那中央病院(伊那市)に搬送していたが、今は松本市の病院に行き先を変更。数人ずつを送った。搬送に1時間20分、1時間半はかかる。飯島章博副院長(53)は「幸い手遅れになる例はまだない」としつつ、権兵衛トンネル不通の影響を懸念している。

木曾郡内唯一の病院である県立木曾病院(木曾町)は、循環器内科と脳神経外科に常勤医がいらない。脳出血と心筋梗塞の患者は一刻を争うだけに、国道361号経由で、35分40分で到着できる伊那中央病院(伊那市)に搬送していたが、今は松本市の病院に行き先を変更。数人ずつを送った。搬送に1時間20分、1時間半はかかる。飯島章博副院長(53)は「幸い手遅れになる例はまだない」としつつ、権兵衛トンネル不通の影響を懸念している。

台風19号による県内の住宅被害
（18日午前10時時点、県災害対策本部まとめ）

市町村	全壊	半壊	一部損壊	床上浸水	床下浸水	計（世帯）
長野市	824	1465	1573			3862
松本市			4		3	7
上田市	1	11	336			348
岡谷市			4			4
須坂市	1	246	103			350
中野市	8	67	34	3	17	129
飯山市		190	431			621
佐久市	17	162	60		763	1002
千曲市	1	3	615	200	858	1677
東御市			5		3	8
小海町		4	10			14
川上村					4	4
南牧村			1		2	3
南相木村		1			5	6
北相木村	2	3	5			10
佐久穂町	12	52	4		65	133
軽井沢町	2	4	9			15
御代田町			1			1
立科町		3	32			35
青木村					1	1
長和町					26	26
辰野町		2	39			41
箕輪町			13			13
飯島町			1			1
南箕輪村			1			1
麻績村					3	3
筑北村					4	4
坂城町		1	41			42
小布施町	5	28	24			57
高山村					1	1
木島平村			1			1
野沢温泉村					27	27
信濃町		1	9			10
飯綱町			4			4
栄村		2	2			4
合計	873	2245	3362	203	1782	8465

南信州広域連合 飯田の焼却施設

災害ごみ受け入れ検討

飯田下伊那地域の14市町村
でつくる南信州広域連合の牧
野光朗連合長（飯田市長）は
18日、台風19号で発生した県
内の災害ごみについて、同広
域連合が運営するごみ焼却施
設「稲葉クリーンセンター」
（飯田市）で受け入れる方向
で検討していると明らかにし
た。牧野連合長は記者会見で
「被害があまりに広範囲とな
り、協力しないわけにはいか
ない状況」と述べた。

同広域連合によると、稲葉
クリーンセンターでは下伊那
郡根羽村を除く13市町村の可
燃ごみを処理。プラスチック
類を含め1日最大93ト焼却で
きる。現在の1日の処理量は
91ト。同広域連合は10月、県
から災害ごみの受け入れを打
診された際、「現在の処理量
が処理能力の限界に近い」と
して断っていた。

牧野連合長は「2トの余力
のうち、災害ごみの焼却に充
てられるのは1トほどだろ
う」と説明。受け入れ開始
は年内を目指すとした。そ
のうえで施設の余力を増やす
ため、13市町村の住民には
プラスチックごみのリサイク
ルを呼び掛ける考えを示し
た。

飯田下伊那地域の14市町村
でつくる南信州広域連合の牧
野光朗連合長（飯田市長）は
18日、台風19号で発生した県
内の災害ごみについて、同広
域連合が運営するごみ焼却施
設「稲葉クリーンセンター」
（飯田市）で受け入れる方向
で検討していると明らかにし
た。牧野連合長は記者会見で
「被害があまりに広範囲とな
り、協力しないわけにはいか
ない状況」と述べた。

長野市教委が文化財など被災まとめ

計14カ所松代に被害多く

復旧ばらつく可能性も

台風19号の浸水や強風で被災した長野市内の国や県、市の登録・指定文化財が計14カ所に上ることが、18日までの市教育委員会のまとめで分かった。このうち松代城跡や複数の寺院など10カ所が市南部の松代地区に集中。修繕費用などの補助は文化財ごとに異なり、所有者も地区や民間などと違いため、復旧にばらつきが出そうだ。

松代地区では登録文化財5件、重要文化財2件、国史跡2件、市指定有形文化財1件が被災。修繕は重要文化財や指定文化財は工事費用まで一部を補助する国の制度があるが、登録文化財は修繕工事の設計や監理までしか補助されない。

松代地区の長明寺は本堂、経蔵が床上浸水し、三門も水に漬かった。いずれも登録文化財。真田家初代藩主信之の側室の

台風19号で被災した長野市の文化財

地区	文化財
松代	荒神堂
	梅翁院本堂、山門
	長明寺本堂、経蔵、三門
	八田家住宅長土蔵
	小山田家住宅主屋、番所
	真田信之の霊屋宝殿、表門
	旧横田家住宅主屋ほか
	松代城跡附新御殿跡
	大室古墳群
	寺町商家(旧金箱家住宅)主屋ほか
戸隠	戸隠重要伝統的建造物群保存地区
芋井	ダニエル・ノルマン邸
吉田	吉田のイチョウ
若穂	清水寺仁王門、三重塔、大日堂跡



冠水した松代城跡北不門門 (長野市教育委員会提供)

用い寺。本堂が70センチほど床上浸水したため、増田正明住職(62)は「シロアリが発生する元になるので消毒したいが、量を取って床をはぐ」というのはやりきれない。

地元の荒神町区所有の荒神堂は、床上浸水で階段部分が一部流れた。隣の公民館も床上浸水し、修理が必要。宮沢徳治区長(68)は「(階段を)

前と同様に直せないかもしれない」と戸惑う。

国史跡の松代城跡は、本丸裏側に復元した北不門門が50センチほど冠水。太鼓門前橋なども一部浸水した。水は2日ほどで引き、建造物に大きな被害はないというが、橋は年度内に予定した経年劣化調査の中で詳細を調べる。

松代地区以外では、国選定

の戸隠重要伝統的建造物群保存地区内の土蔵の一部がはがれた他、県宝のダニエル・ノルマン邸(芋井地区)、いずれも市指定記念物の吉田のイチョウ(吉田地区)、清水寺(若穂地区)で被害があった。

市教委文化財課は他の支援制度の活用について国や県と協議中。「個々の所有者の相談に乗りながら対応していきたい」としている。

1層以上の浸水被害を受けた長明寺の本堂(右)や経蔵(左)。片付いてきたものの、一部に泥が残っている。18日午後2時、長野市松代町



長野でボランティア

「農ボラ」復旧本格始動

周知不足初日参加少なく

台風19号による千曲川などの氾濫で長野市東北部のリンゴ畑に大量にたまった泥やごみを取り除く「信州農業再生復興ボランティアプロジェクト」(農ボラプロジェクト)が18日、本格的に始まった。足が埋まるような泥が残る農園が目立つ中、参加したのは31人。市災害ボランティアセンターを通じて同日、被災家屋の片付けに集まった約640人の約5%にとどまった。農ボラとボランティアセンターで窓口や役割が異なる分、周知不足などが理由とみられる。



より多くの人にボランティアに参加してほしいと訴える女性(右)を、SNSに投稿するため撮影する男性=18日午後3時33分、長野市穂保

被災農家「やることは山ほど…」

「長野に来て1カ月余。最も危機感を抱いています」。農ボラの運営に携わる名古屋市の認定NPO法人職員、井川定一さん(40)は頭を抱えた。泥が厚く堆積した状態が長く続くリンゴなどの根が呼吸できず、木が枯れる恐れがあるからだ。農業は営利事業で、長野市社会福祉協議会が設けたボランティアセンターはボランティアの派遣先として被災家屋を優先。ただ、リンゴ栽培などは地域の基幹産業だ。ながの農協や長野県NPOセンター(ともに長野市)などは別に実行委員会をつくった。こうした事情は、県内外から被災地支援を考える人に十分伝わっていない。実行委の県NPOセンター事務局長、山室秀俊さん(52)は「情報発信が足りなかった。SNS(会員制交流サイト)も活用し、多くの人に参加してもらえようようにしたい」と話す。18日、ボランティアに泥出しを手伝ってもらった長野市

「できる時 できる範囲で」活動

穂保のリンゴ農家、堀口美一さん(37)は「来季に向けた木の剪定や泥の付いた木の洗浄などやることは山ほどある。農家を続けるために、雪が多少積もっても動かなくて」とつぶやいた。農ボラは毎日午前9時から10時半、同市穂保の農産物直売所「アグリながめま」で受け付ける。中学生以上が対象。近くに駐車場がある。問い合わせは実行委(☎080・8497・5942、午前9時～午後6時)へ。

女性たち 子育て忙しいけれど リンゴ箱の洗浄で活躍



高圧洗浄機を使って泥の付いたリンゴ箱を洗う女性たち=18日正午すぎ、長野市赤沼

10月下旬に始め、延べ100人以上が参加。農家によっては数百個あるリンゴ箱を洗うには、1軒当たり1週間かかることもある。同じ作業が続けば参加者は慣れる。北沢さんは「毎日説明しなくても任せきりで作業をしてもらえるのが助かる」と感謝する。まとめ役を担ってきた山本さんも「同じ場所に通うので家の人も少しずつ距離が近づくのがうれしい」と魅力を話した。

台風19号災害で被災した長野市東北部のリンゴ農家で、市内を中心とした子育て中の女性らが泥まみれになったりリンゴ箱を洗うボランティア活動に取り組んでいる。午前や午後だけといった限られた時間や、体力に自信がなくてもできる内容が口コミで広がった。量が多く、同じ作業を続けることで参加者も慣れ、効率が高まるという。支援を受ける農家の評価も上々だ。

18日午前、同市赤沼の北沢聖敏さん(43)宅で女性8人がホースの水や高圧洗浄機でリンゴ箱の泥を落とす。ずぶぬれになり中腰の姿勢が続く。「子どもの送り迎えの間にできる支援を探していた」という女性たち。この日は5人が正午で切り上げ、午後は新たに2人が加わった。

同市上松のかばん作家山本博子さん(43)が、被災した友人を紹介して同市赤沼のリンゴ農家中村太士さん(37)と知り合ったのがきっかけ。自宅や畑、直売店が被災した中村さんは、女性の発信力と丁寧さを生かしてもらおうと、リンゴ箱洗浄の人手集めを山本さんに依頼。支援を必要とする農家6軒につないだ。

千曲川氾濫

あの時_{そして}今

千曲川氾濫 1か月

焦っても仕方がないよ

千曲の自宅浸水 91歳元大工 穏やかな暮らし一変 自ら修繕

千曲川の氾濫で冠水した千曲市杭瀬下を取材していた時、素人目にもしつかりした木造2階建てが目にも留まった。しばらくして、床板を剥がし、基礎を乾かしていた金井武さん(91)に声を掛けた。元大工で、50年近く前に自ら建てた家だという。工具で床板の釘を抜きながら、「老体にむち打ってでもやらない」と「人さまに迷惑を掛けないように」と、ぼつぼつ語る言葉が気になっていた。

13日。久々に再訪すると、変わらぬ傷んだ家具に手を入れ、床下の乾燥具合を確かめていた。この1カ月「夢中のうちに過ぎた」と言って、

黙々と手を動かした。15年ほど前に現役を退き、「死ぬまで元気でいたい」と、日用品の細工やノルディックウォークを楽しんでいた穏やかな暮らしは、「伊勢湾台風(1959年)でもこんなこととはなかった」と言う千曲川の氾濫で一変した。10月12日午後8時ごろ一帯の冠水が始まり、妻、長男の3人で近くの市東壇文化会館に避難。13日未明にはそれも浸水し、旧更埴庁舎に移った。自宅を見に戻ると床上32センチの浸水の跡。敷地には流れ着いた稲わらが散乱し、タイヤも転がっていた。

歩行につえが要る妻のことを考え、市内の親戚宅に身を寄せてから、自宅に通って修繕する日々が始まった。「年齢を考えればがっくりきょうなものだが、むしろ以前よりしつかりした印象」。長野市篠ノ井布施五明の元大工、吉野登さん(78)が大工仲間と手伝いに駆け付けた時の金井さんの様子を振り返る。金井さんの弟子の一人だ。

親戚が家財道具を運び出し、吉野さんが床下にもぐって、水を含んだ断熱材を泥だらけになって取り除いた。「心から感謝している」と金井さんは言う。それだけに、「自分が動けなくなるとお荷物になる」との思いも増した。戦後、建築会社を立ち上げた金井さんは、責任感の強い頼れる親方だったと吉野さんは語る。思いがけず「被災者」になり、調子の悪い両膝を抱えつつも「親戚にいつまでも世話になるわけにいかない」と気を張る。「今まで以上に

健康を意識して真土に行けるようにしたいね」。そんな生き方を受け止める人の輪が、金井さんを囲む。床下も完全には乾いていない。日光を当てるのが一番とっている。本格復旧は来春以降になりそうで、元の生活がいつ戻るのかは見通せない。とりあえず正月は自宅で過ごしたいと、居間の一部を優先して直し、辛うじて寝泊まりはできるようになった。時間も費用もどれだけかかるかわからないが、焦っても仕方がないよ。淡々とそう話し、また職人の目に戻った。(鈴木淳介)



現役時代の作業衣を着て自宅を修繕する金井さん。職人の目は変わらない＝13日、千曲市杭瀬下(林克樹撮影)

千曲市の氾濫被害 10月12日午後9時50分、千曲川の杭瀬下水位観測所で水位6.4メートルを記録。遊水池機能を持たせるため堤防の一部が切れた「霞(かすみ)堤」から市街地に水が流れ込んだとの見方があり、千曲市杭瀬下一帯に浸水被害が出た。同市雨宮の千曲川右岸でも越水があった。全壊1戸、半壊3戸、一部損壊615戸となった。



冠水した千曲市杭瀬下の街＝10月13日午前6時

長野・赤沼公園 「混合ごみ」搬出終える

長野市は18日、長沼地区の赤沼公園で可燃や不燃、金属くずが分別されていない「混合ごみ」の搬出が同日未明にいったん終わったと明らかにした。台風19号で千曲川の堤防が決壊した地点に近く、市民が自然発生的に災害ごみを置き始めた仮置き場。混合ごみは同公園に置かれたごみの大半を占めていたが、自衛隊が連日夜間に搬出、市が郊外に設けた非公開の仮置き場に移し終えた。市は災害ごみ仮置き場として豊野東山第1、第2運動場(豊野町大倉)やアクアパル千曲(真島町真島)などを設置。長沼地区から遠く、市民は赤沼公園に持ち込んだ。市廃棄物対策課によると約2秒の公園は一時満杯になった。10月20日ごろから自衛隊が毎日夜から未明に混合ごみを運び出した。自衛隊はさらに数日、園内に残る木くずや家電、タイヤなどのその他のごみを分別、整理する。残った木くずや家電などは、市が委託する民間事業者がリサイクルする。市は近く別の民間事業者に赤沼公園の管理を委託し、12月末ごろまで仮置き場として市民が持ち込む災害ごみを受け入れる予定だ。赤沼地区の西沢清文副区長(65)は、倉庫や小屋はまだ被災時のままが多いとし「市には今後も手厚い対応をお願いしたい」と話した。



混合ごみの搬出が終わっても自衛隊員らによる整理作業が続く赤沼公園＝18日、長野市赤沼